



佐世保市立花高小学校



=めざす児童像=
考える子
やさしい子
元気な子

所在地 佐世保市花高三丁目4番1号
校長 山田 和則
児童数 652名
学級数 25学級



小森川自然体験学習（3年生） ～水中生物とのふれあい～

米作り体験 ～稲刈り～（5年生）

1 目的

- 児童の発達段階に応じた様々な学習活動を通して、環境の大切さを学ぶと共に、学校が一人一人にとって楽しい学びの場となることで、学校教育目標である「ひらく[元気な子]」の具現化を目指す。
- 活気と潤いのある学校環境を整備するために、学級園等において学年に応じた草花や作物の栽培を推進する。また、地域の方との交流・福祉活動を通して児童の情操を高め、「いのち」を大切に作る心を育てることにより学校教育目標である「いのち[やさしい子]」の具現化を目指す。
- 校内研究テーマである「自己を見つめ、よりよく生きようとする子どもの育成～心をつなぐ言語活動と環境を通して～」を推進していくために、これまで取り組んできた「教えて考えさせる授業」をベースに、児童間の「対話」を重視し、学びの深化を図りながら、コミュニケーション力の向上を目指す。心を落ち着かせる「言葉遣い」を啓発することにより、学校教育目標である「みがく[考える子][やさしい子]」の具現化を目指す。
- 近隣の保育園や幼稚園の幼児を招いて、接続カリキュラムに則り、遊びやふれあい活動、学校探検、学習見学を通して、保育園や幼稚園とのふれあいによる交流を深め、保育園や幼稚園からの円滑な移行を目指す。

2 実践内容

対象 学年	時期	活動 場所	活 動 内 容
1年	7 月	中 庭	<p>【シャボン玉遊びをしよう】</p>  <p>保幼小連携事業の第1回目の活動として近隣の保育園や幼稚園生と一緒にシャボン玉を飛ばして遊んだ。小学校では入学以来、お世話されるが多かった1年生が、園児を楽しませることができ、うれしそうだった。また、大きなシャボン玉が上がり、歓声が聞かれた。微笑ましい姿が多く見られ、楽しい交流となった。</p>
	12 月	体 育 館	<p>【昔遊びをしよう】</p> <p>保幼小連携事業の第2回目の活動として実施した。1年生は事前に親子で昔遊びを楽しんでいたもので、園児の手を引き、遊び方や約束事などを知らせながら、いろいろな昔遊びを紹介し、共に楽しむことができた。</p> 
	12 月	中 庭	<p>【チューリップの球根を植えよう】</p> <p>春に咲く花、チューリップの球根の植え方を地域ボランティア「花のわ会」の方をゲストティーチャーに迎え、教えていただいた。球根が寒さに耐えることの大切さなど話をしていただき、子ども達も真剣に聞くことができた。命の大切さに気づく有意義な活動になった。</p>
2年	5 月 11 月	学 年 園	<p>【ぐんぐんのびろ】</p> <p>生活科で、野菜を育てる学習に取り組んだ。夏野菜ではナス・ピーマン・キュウリを、冬野菜ではブロッコリーと大根を育て、水やりや草抜きなどのお世話を行った。どの野菜も順調に成長し、収穫した野菜は子ども達一人ひとりが持ち帰ることができ、家庭での会話にも花が咲いた様子であった。子ども達は、実践を通してただ見るばかりでなく、においや手触り、味覚など五感を使って成長の様子を観察することができた。また、日ごろ食べている野菜を実際に育ててみると大変な苦労があることを知り、食物の大切さを感じることができた。中には、普段は苦手な野菜であるにもかかわらず、育てた野菜は「食べてみたい」と野菜に対する関心の高まりがみられる子どもも現れ、食育指導の上でも大いに役立った。野菜一つひとつの大きさの違い、細かった苗が丈夫に根付いていく様子などを通して、いのちの大切さに気づくことにもつながり、有意義な活動となった。</p> 
3年	9 月	小 森 川	<p>【小森川自然体験学習～水中生物とのふれあい～】</p> <p>ゲストティーチャーの肥後さんのご指導のもと、小森川で川遊びをしたり、水質検査をしたりした。自分たちが採った生物を細かく観察して指標を使って</p>

<p>3年</p>	<p>9月</p> <p>11月 ～ 2月</p>	<p>小森川</p> <p>運動場</p>	<p>水中生物を調べたりする中で、川の水の様子を知ることができた。地域の方々と体験的な活動を一緒に行うことで地域の方々の思いを受けとめながら、意欲的に学ぶことができた。また、地域の自然の豊かさに気づく良い機会となった。子ども達は自然環境を守る大切さを感じ、自分たちのふるさとに流れる小森川を大切にしようという思いをもつことができた。</p>  <p>【お年寄りと交流しよう～花高 GGC の方々とのグランドゴルフ交流～】</p> <p>地域の方との交流を図るために、校区内で活動されている花高グラウンドゴルフクラブの方々をお迎えし、グラウンドゴルフでの交流を楽しんだ。最初は打ち方やルールなど知らない子ども達だったが、教えていただきながら次第に上達し、楽しく活動することができた。中には、ホールインワンを出す子どももいて、GGCの方と抱き合って喜ぶ場面も見られた。グランドゴルフの技術はもちろん、お年寄りとの心の交流が深まり、地域に根ざした学校づくりを行うことができた。お年寄りの方の中には、登下校時の見守り隊をされている方がいて、より親しくなり、元気なあいさつにもつながりそうである。</p>  
<p>4年</p>	<p>6月 ～ 8月</p> <p>2月</p>	<p>校外</p> <p>校内</p>	<p>【平和について考えよう】</p> <p>長崎見学旅行を実施した。全校児童が折った千羽鶴を平和公園に捧げて、原爆の被害に遭われた方のご冥福を祈り、12の班に分かれて班別学習を行った。各班にガイドの方から、平和公園付近の原爆遺構や原爆資料館の展示物について説明していただいた。ガイドの方には体験談を交えて説明をしていただき、学校では学ぶことのできない貴重な学習体験をすることができた。見学旅行で学んだことは班ごとにまとめ、8月9日に全校に発表して、平和学習の成果を発信しました。また、各学級に出向いての平和についての発表では、長崎で学んだことを生かして発表内容をまとめ、自分の言葉で各学級に伝えることができた。</p>  <p>【高齢者・障害児疑似体験活動】</p> <p>佐世保市福祉活動プラザの方に指導していただき、高齢者・障害児疑似体験を行った。車椅子体験では主に車椅子の乗り降りや操作の仕方について体験した。段差のあるところでは、自力では上がれず、介助者役の子が手助けする場面が見られ、段差が行動の妨げになることを実感していた。高齢者体験では、全身に装具を着け、体が自由に動かない状態、目や耳が不自由な状態を体験した。おはじきを皿に移し替える作業では、なかなかおはじきをつまめず苦労していた。また、階段の上り降りでは、介助の仕方も体験することができた。お年寄りの苦労を初めて実感し、「お年寄りに優しくしてあげたい」と感想を述べる子どもが数多くいた。</p> 

5年	5月～10月	校内 田	<p>【米作り体験学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5月～6月 <田起こし・代かき> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌やスコップで、2回田起こしを行った。 ○ 6月10日(水) <田植え> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー小川さんに田植えの仕方を教わり、1人当たり3～5株の苗を植えることができた。 ○ 7月～10月 <ul style="list-style-type: none"> ・稲の花の観察。薬剤の散布を行った。(薬剤は小川さんにしていただいた。) ○ 10月14日(水) <稲刈り> <ul style="list-style-type: none"> ・稲刈りの方法について小川さんより指導を受けのこ鎌を利用し1株ずつ刈り取った。 ○ 10月21日(水) <脱穀> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パックで脱穀を行った。 ○ 米について調べたことを発表し合い、収穫したお米をなべで炊いて食べた。食べ物大切さについて一層学習を深めることができた。 	 
	2月	校内	<p>【保育園児・幼稚園児と交流会をしよう】</p> <p>保幼小連携事業の第3回目の活動として実施した。近隣の保育園児や幼稚園児を学校へ招待し、校内を巡りながら一緒に遊んだ。手を引いて優しく接する場面が多く見られた。活動後も校外において気軽に声をかけるなど顔見知りになることで思いやりの心をもつことができた。</p>	
6年	2月～3月	校内	<p>【感謝の気持ちを伝えよう】</p> <p>「雨の日も風の日も毎日温かく見守ってくださり、ありがとうございました。」「6年間無事に登校することができました。」等々…。6年間お世話になった、登下校を見守ってくださった見守り隊や、花のお世話やアドバイスをいただいた花のわ会の方々、放課後子ども教室や、よみきかせの方々、多くの地域ボランティアの皆さんに感謝の気持ちを伝えるために、メッセージを添えて、喜んで使っていただける物を考え、作成した。卒業への意識が高まり、多くの方々に支えられていることの幸せに改めて気づくことができた。</p>	
全学年	年間	教室	<p>【学力検査<算数>・下敷きの活用】</p> <p>確かな学力の定着を図るための確認資料として、全学年1月に算数の学力テストを行った。その結果を、年度末の学習まとめや校内研修の資料として活用した。また、家庭学習の手引きを印刷した下敷きを使用することによって、常に家庭学習を意識させることにより学習習慣の定着を図ることができた。さらに、下敷き裏面の学習の心構えや発表の仕方を活用することで、授業に望む心構えや、相手を意識した話し方や聞き方ができるようになってきている。</p>	